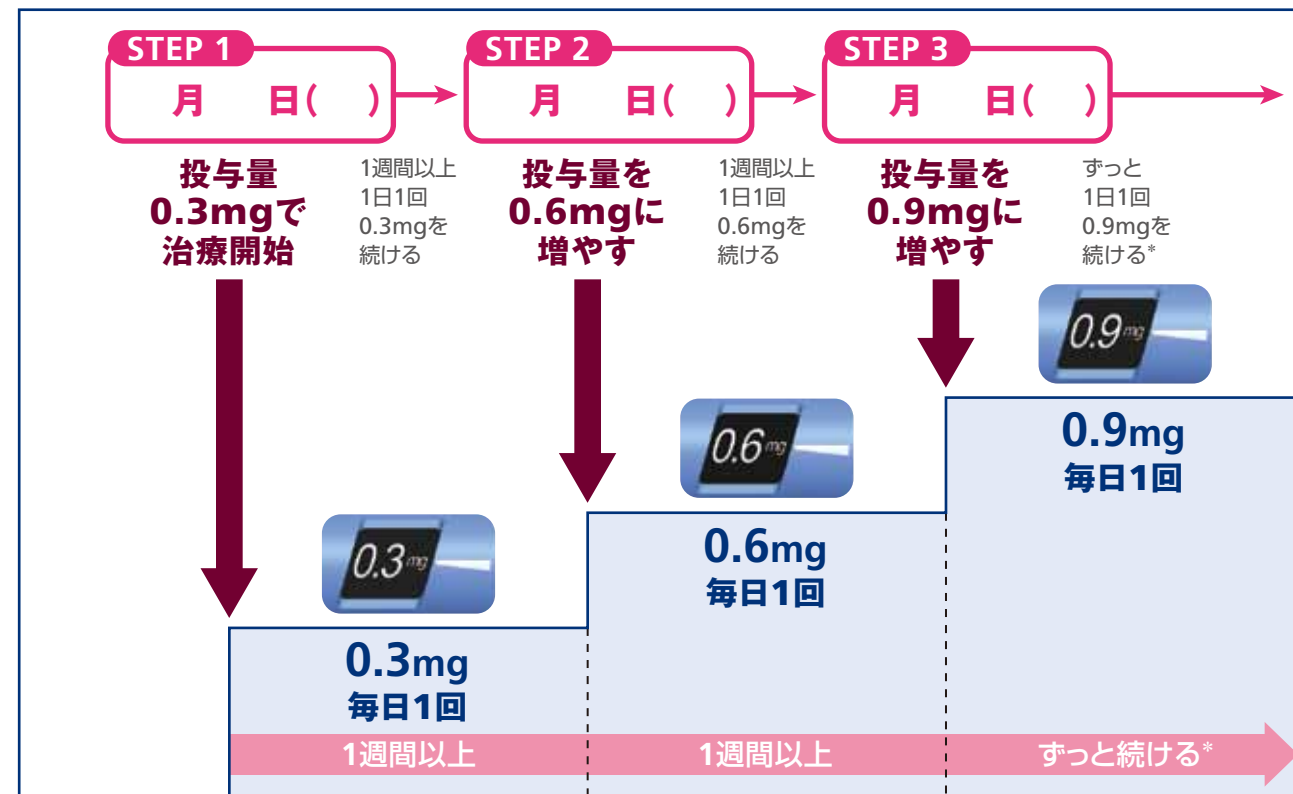


# 投与量セルフチェックシートなど

## ● 投与量セルフチェックシート

主治医の指示に従って、投与量を増やす月日を記入してください。  
低血糖症状を感じた場合や、消化器症状が長く続く場合には、すぐに主治医に相談してください。  
投与量を増やす月日は変更となることがありますので、常に主治医の指示に従ってください。



\*治療の継続に関しては、主治医の指示に従ってください。

## ● 注射部位について

注射部位は、おなか(腹壁)、上腕部の外側、太もも(大腿部)の外側が適しています。主治医の指示に従って、“おなか”なら“おなか”のように毎回同じ部位に注射しましょう。しかし、いつも同じ場所ばかりに注射をしてしまうと、その場所(皮膚)が硬くなってしまい、ビクトーザ®の効き目が悪くなってしまいます。同じ部位の中で、前回注射した場所より2~3cm(指2本以上)ずらして注射しましょう。



## ● インスリンからビクトーザ®に治療変更をした患者さんへ

インスリンからビクトーザ®に治療変更した場合に、まれに高血糖をきたす場合があると報告されています。

- もしも高血糖になった場合は、速やかに主治医に相談をしてください。
- 血糖値モニタリングも高血糖になっていないかを確認するのに有効です。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1  
www.club-dm.jp

# ビクトーザ®を正しく使うために

この冊子は、ビクトーザ®の使用手順や注意点を説明したものです。注意事項やその他の必要事項の詳細については、製品に添付されている使用説明書をご覧ください。  
また、自己注射は、主治医の指導のもとで行ってください。

### 使用前に本書を必ずお読みください。

- ◆ 本書を大切に保管し、いつでも必要なときに取り出して読めるようにしてください。
- ◆ わからない点は主治医、またはノボケア相談室にお問い合わせください。

- ▶ 処方されたビクトーザ®をほかの人に渡したり、ほかの人と一緒に使ったりしないでください。
- ▶ 表示された使用期限を過ぎたビクトーザ®は、使用しないでください。
- ▶ ビクトーザ®は必ず注射針をはずして保管してください。
- ▶ お子様の手の届かないところに保管してください。

### 監修

新潟薬科大学薬学部臨床薬学研究室 教授  
朝倉 俊成 先生

## ノボケア相談室

製品に関する疑問・質問などは、お気軽に下記のノボケア相談室にお問い合わせください。

☀ 月曜日から金曜日  
(祝日・会社休日を除く)

9時~18時

☎ 0120-180363

🌙 夜間及び土日・祝日・会社休日  
(時間外受付センター)

(注) 緊急でないお問い合わせの場合には、原則として、翌営業日に回答させていただきます。

☎ 0120-359516

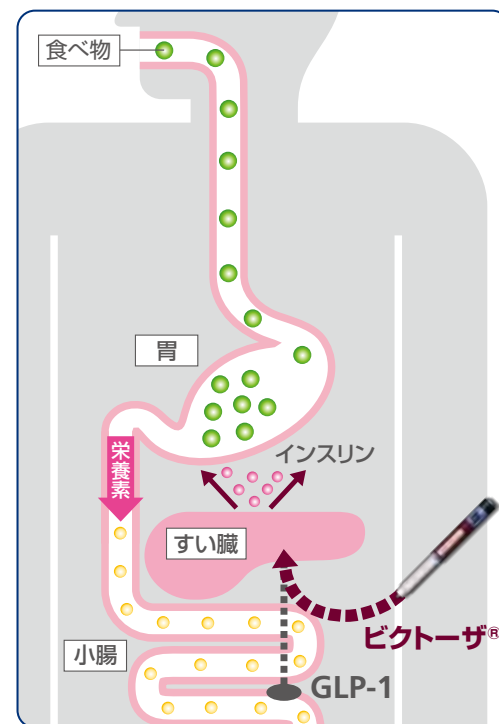
# ビクトーザ®について

## お薬の名前 ビクトーザ®皮下注18mg

- ・ビクトーザ®は、お薬の入ったカートリッジがあらかじめペン型注入器にセットされたプレフィルド製剤です。本体の色はライトブルーです。
- ・注射針は、JIS T 3226-2に準拠したA型専用注射針を用いてください。  
[ビクトーザ®はA型専用注射針との適合性の確認をペンニードル®で行っています。]
- ビクトーザ®とA型専用注射針との装着時に液漏れなどの不具合が認められた場合には、主治医の指示に従い、新しいビクトーザ®や注射針に取り替えるなどの処置を行ってください。
- 誤った操作に起因する事故および故障につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

## 中に入っているお薬について

ビクトーザ®は、2型糖尿病のためのお薬です。ヒトの体では、食事をして糖質(炭水化物など)を摂取すると小腸からGLP-1(ジーエルピーワン)という消化管ホルモンが出ます。GLP-1は、すい臓にある $\beta$ (ベータ)細胞に働きかけてインスリンを出させ、食事によって高くなる血糖値をコントロールする役割を持っています。このGLP-1の構造を少し変えて1日1回投与のお薬にしたのが、ビクトーザ®(ヒトGLP-1アナログ製剤)です。ビクトーザ®は、食事をして糖質(炭水化物など)を摂取したときに $\beta$ 細胞からインスリンを出させて血糖値を下げますが、血糖値が低くなってくると作用しにくくなります。インスリンを出させ過ぎたり、血糖値を下げ過ぎたりすることはなく、ほかの糖尿病薬と併用しないときには低血糖を起こしにくいお薬です(ただし、ほかの糖尿病薬を併用している場合には、低血糖が起こる可能性が高くなるため注意が必要です)。



## ビクトーザ®はこんなお薬

- ・インスリンを出させて、HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)、空腹時血糖値、食後血糖値を低下させます。
- ・ほかの糖尿病薬と併用しないときには低血糖を起こしにくく、良好な血糖コントロールが得られます。ただし、SU(スルホニルウレア)薬やインスリンなど、ほかの糖尿病薬などを併用している場合には低血糖が起こりやすくなるため注意が必要です。低血糖の症状を感じたら、すぐに主治医に相談しましょう。また、定期的に通院し、血糖値を確認してもらいましょう。
- ・インスリンをつくるすい臓の $\beta$ 細胞の働き(機能)をみる指標を改善します。
- ・このほかに、体重が増えにくいことなどが確認されています。

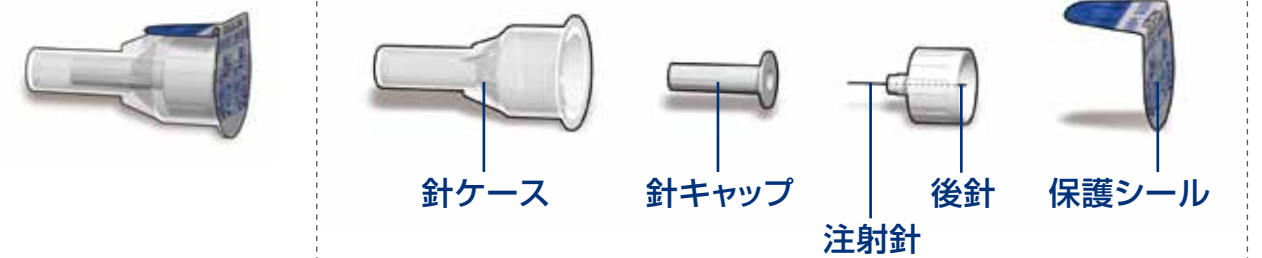
## 各部の名称

### ビクトーザ®皮下注18mg



### 注射針

(JIS T3226-2 A型専用注射針)



イラストはペンニードル®(医療機器認証番号:218AABZX00038000)を用いています。

## 注射のときに用意するもの

- ・ビクトーザ®
- ・注射針
- ・消毒綿

## 使用期限

使用期限は外箱、本体のラベルに記載されています。使用期限を過ぎたビクトーザ®は使用しないでください。

## 注意しましょう

- 落としたり衝撃を与えたりしないでください。故障や液漏れの原因となる場合があります。
- 分解・改造しないでください。分解すると使用できなくなります。
- 薬液を詰め替えて繰り返し使わないでください。
- ビクトーザ®の保管方法は、P.9をご覧ください。



# 注射針を取りつけましょう



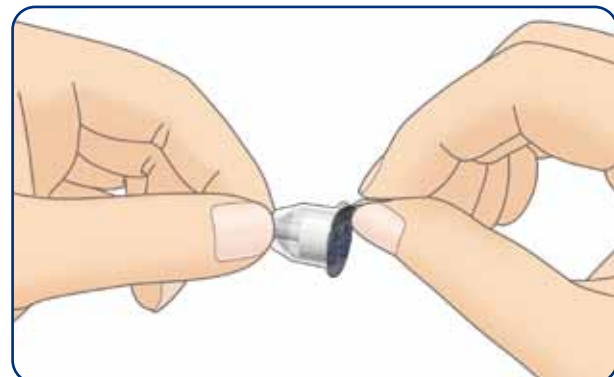
1. お薬の名前がビクトーザ®であることを確認します。



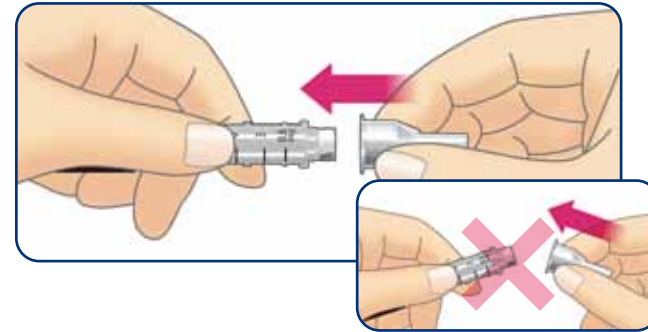
2. ビクトーザ®のキャップをはずします。  
●カートリッジにひびが入っていたり、薬液が変色したり、浮遊物がみられる場合は使用しないでください。



3. ゴム栓を消毒綿で拭きます。

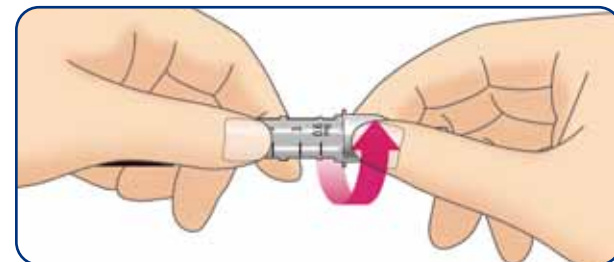


4. 注射針の保護シールをはがします。  
●注射針は毎回新しいものを、必ず注射直前に取りつけてください。  
●ほかの人が使用した注射針を絶対に使用しないでください。感染症の原因となることがあります。  
●注射針の保護シールが破損している場合は使用しないでください。

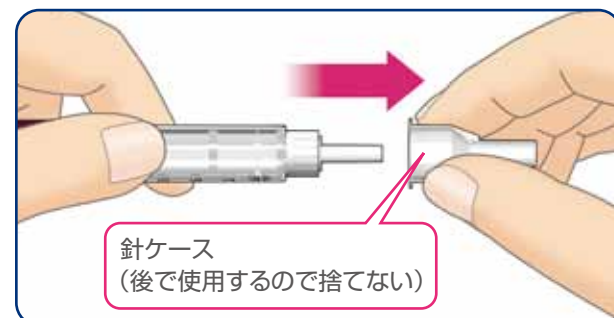


5. 注射針をゴム栓にまっすぐ奥まで取りつけます。

●注射針を斜めから取りつけると、後針が曲がり薬液が出なくなるおそれがあります。薬液が出ない状態で注射を行うと、薬液が正しく注射されません。また、カートリッジのゴム栓が膨らむなど故障の原因になります。

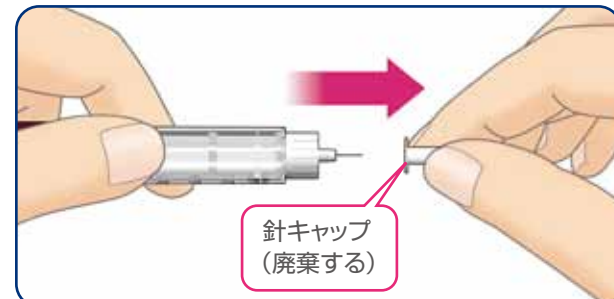


6. 止まるまで回します。



7. 針ケース(後で使用するので捨てない)をはずし、その次に内側にある針キャップ(廃棄する)をまっすぐ引っ張ってはずします。

●注射針を曲げたり傷つけたりしないでください。注射時の痛みの原因になったり、針が折れて皮下に残ることがあります。



●針キャップをはずすとき、注射針に触れないよう注意してください。注射針の先端がまくれたり折れたりすることがあります。

# 空打ちをしましょう

空打ちとは:実際に注射する前の“試し打ち”です。  
何のために行うの?

- ① 注射針が正しく取り付けられていることを確認する
- ② 注入器が故障していないかを確認する
- ③ カートリッジに入っている気泡を抜いて、正しい量を注射できるようにする

いつ行うの?

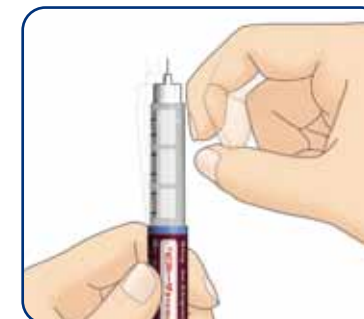
毎回注射する前、落とした場合など故障や異常の可能性があるとき、注射針を曲げるなどして新しい注射針に交換したときに行いましょう。

## ダイアルの合わせ方

ダイアルを回し、空打ち目盛にポインターを合わせるときは、ダイアル表示が「0.0mg」になっていることを確認した後、2クリック回してください。



1. ダイアルを回し、空打ち目盛にポインターを合わせます。



2. 針先を上に向けてビクトーザ®を持ちます。そして、カートリッジの上部を指で軽く数回はじき、カートリッジ内の気泡を上部に集めます。



3. 針先を上に向けたまま注入ボタンを押し込みます。針先から薬液が出て、ダイアル表示が「0.0mg」に戻ります。薬液が出ない場合は同じ操作を数回繰り返してください。

- 新しいビクトーザ®を使う際に、6回空打ちをしても薬液が出ないときは、使用しないでください。
- カートリッジ内のごく小さな気泡を完全に取り除くことはできませんが、これは異常ではありません。そのまま「投与量の設定」に進んでください。
- 後針が曲がってゴム栓に取り付けられていない場合、または針穴が詰まっている場合は、空打ちを繰り返しても薬液が出ず、注入ボタンが押しにくくなります。無理に注入ボタンを押し続けると故障の原因となります。注入ボタンが押しにくい場合は新しい注射針に交換し、もう一度空打ちを行ってください。

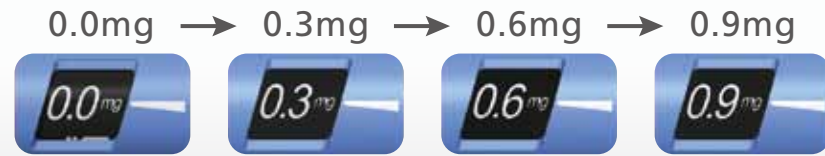


# 投与量を設定しましょう

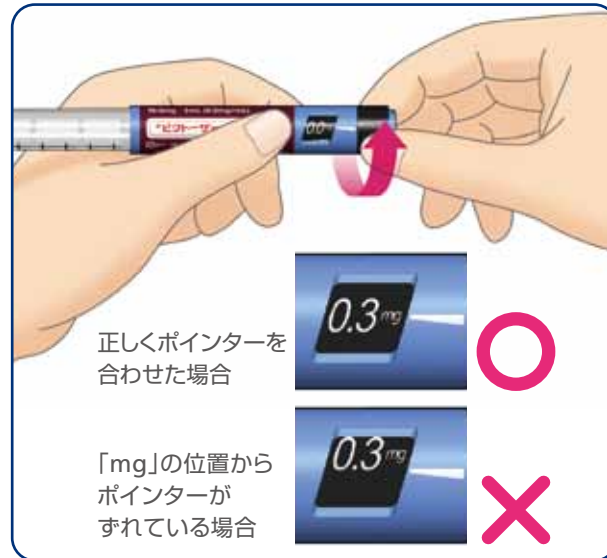
# 注射をしましょう

## ビクトーザ®のダイヤル

ビクトーザ®のダイヤル表示には、0.0mg、0.3mg、0.6mg、0.9mgがあります。ダイヤルを合わせるときは、ダイヤル表示が「0.0mg」になっていることを確認した後、主治医の指示に基づき、「0.3mg」、「0.6mg」、「0.9mg」のいずれかに合わせます。



1. まず、ダイヤル表示が「0.0mg」になっていることを確認してください。「0.0mg」でない場合は注入ボタンを完全に押し込んでください。



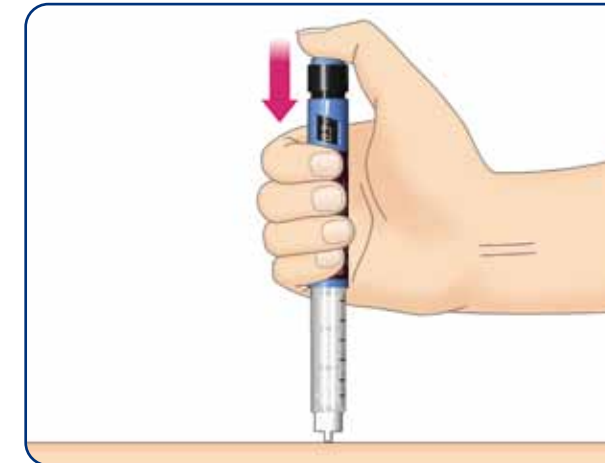
2. ダイヤルを回し、指示された量(0.3mg、0.6mg、0.9mgのいずれか)の目盛にポインターを合わせます。「mg」の位置にポインターを正確に合わせてください。

- 0.3mg、0.6mg、0.9mg以外の量では、絶対に投与しないでください。
- 回し過ぎたときは、逆に回して、正しい位置に戻してください。
- ダイヤルを回すとカチカチという音がしますが、この音を注射する量の設定に使用しないでください。
- ダイヤルを戻すとき、注入ボタンを押さないでください。針先から薬液が押し出されてしまいます。

- ダイヤルは、カートリッジ内の残量以上は回りません。ダイヤルが止まったら、それ以上無理に回さないでください。故障の原因になります。
- カートリッジ内の薬液の残量が注射する量より少ない場合は、次のいずれかで対処してください。
  - ① ダイヤルを回し、0.3mgあるいは0.6mgの目盛にポインターを合わせます。注射した後、新しいビクトーザ®に交換し、空打ちした後、不足分を注射します。
  - ② ダイヤルが0.3mgより前で止まった場合は使用をやめ、新しいビクトーザ®に交換し、空打ちした後、主治医に指示された量を注射します。
- カートリッジの残量目盛で、お薬のおよその残量を確認することができます。しかし、およその量しかわかりませんので、注射する量をはかる目的では使用しないでください。

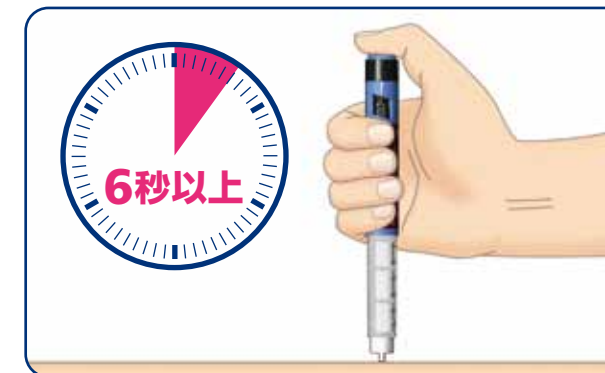


1. 注射部位を消毒し、主治医に指示された方法で針を皮膚に刺してください。



2. 注入ボタンを、真上から押し込んでください。

- 注入ボタンを押すとダイヤルが回ります。ダイヤル表示に指を触れたり、注入ボタンを斜めに押ししたりしないでください。注射がうまくできない原因となります。
- ダイヤル表示が「0.0mg」に戻ります。「0.0mg」の目盛にポインターが合うまで、注入ボタンを押し込んでください。その間「カチカチ」という音がしますが、この音は設定した量の注射を確認するためのものではありません。
- 必ず注入ボタンを押してください。ダイヤルを回すだけでは、薬液は注入できません。
- 注射針をつけずに、投与量を設定して注入ボタンを押さないでください。



3. 完全に薬液を注入するため、注入ボタンを押した状態で、6秒以上針を皮膚に刺したままにしてください。

4. 注入ボタンを押したまま、針を抜いてください。針先に薬液がわずかにあらわれる場合がありますが、投与量に特に問題はありません。

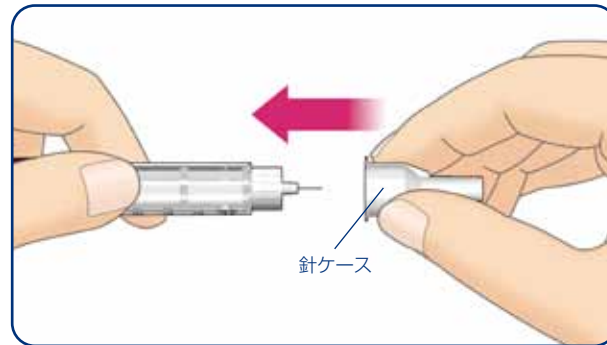
- 注射後、針を抜くまでは、注入ボタンを押した状態を保ってください。注入ボタンを押している指の力を途中でゆるめると、まれにカートリッジ内に血液が混入することがあります。万一カートリッジ内に血液が混入した場合は、新しいものをご使用ください。

## 注意しましょう

- 投与量、注射の時刻、注射する部位などは、必ず主治医の指示に従ってください。指示された投与量・時刻などを勝手に変更したり治療を中断すると、血糖コントロールが乱れるおそれがあります。

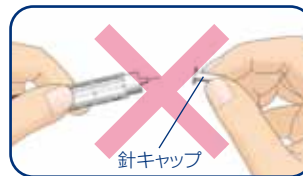
# 注射が終わったら

注射後は必ず注射針をはずしてください。

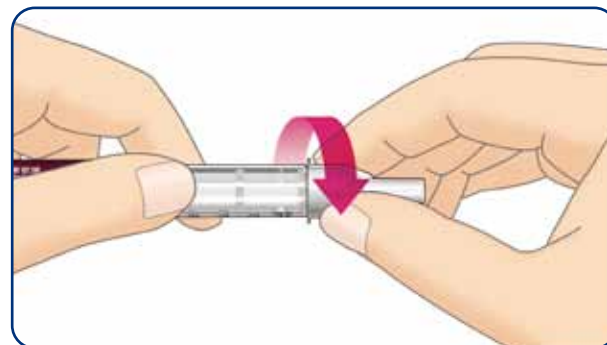


## 1. 注射針に針ケースをまっすぐ取りつけます。

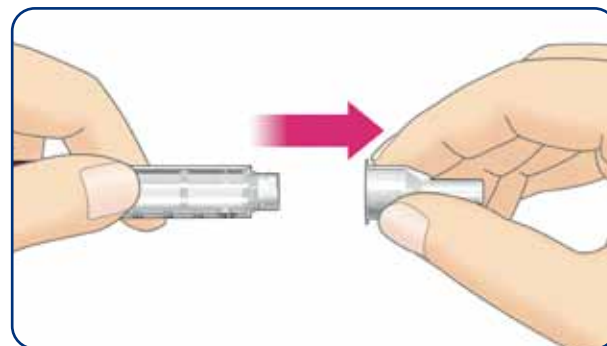
●針ケースを斜めから取りつけると、注射針が針ケースを突き抜けることがあります。針ケースはまっすぐ取りつけましょう。



●針が指に刺さってしまうおそれがあるため、針キャップは絶対に注射針につけ直さないでください。



## 2. 針ケースごと回します。



## 3. まっすぐ引っ張ってはずします。

## 4. 使用済みの注射針は、医療従事者の指示に従い危険のないように捨ててください。

●感染症を防ぐため、使用済みの注射針の廃棄方法については医療従事者の指示に必ず従ってください。

## 5. キャップをつけます。

●カートリッジの中身がなくなったビクトーザ®は、注射針をはずし、医療従事者の指示に従って捨ててください。

# お手入れ方法

- ・汚れは、中性洗剤を含ませたやわらかい布で拭き取ってください。
- ・ほこりやゴミは、やわらかいブラシで吹き払った後、やわらかい布で軽く拭いてください。
- 直接水で洗わないでください。ビクトーザ®には防水処理が施されていませんので、故障の原因となることがあります。万一、水などがかった場合は、吸水性のあるやわらかい布で拭いてください。
- ビクトーザ®に油をさしたり、ゴム栓以外の部分を消毒綿で拭いたりしないでください。故障の原因となることがあります。



# 保管方法

## 未使用の場合

- ・冷蔵庫内に食べ物などとは区別して清潔に保管してください。ただし凍らせてはいけません(フリーザーの中や冷蔵庫内の冷風が直接あたるような場所には置かないでください)。
- 凍ってしまった場合は使用しないでください。



## 使用中の場合

- ・注射針をはずして室温で保管し、30日以内に使用してください。
- ・必ずキャップをつけて保管してください。
- ・遮光して保管してください。
- ・保管するときは必ず注射針をはずしてください。
- 注射針をはずさずに保管すると、温度変化などにより針先から薬液が漏れたり、カートリッジ内に気泡ができることがあります。針詰まりや感染症の原因となるおそれもあります。
- ・次のような場所は避けてください。故障の原因となったり、品質に影響を及ぼすことがあります。
  - ほこりやゴミが付着しやすい場所
  - 汚れやすい場所
  - 直射日光のあたる場所(窓辺など)
  - 極端に低温または高温になる場所(自動車内など)
- ビクトーザ®や注射針などは、お子様などの手の届かないところに保管してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに主治医に相談してください。





主なトラブルと、その対処法をあげました。これらの対処を行っても問題が解決できない場合は、新しいビクトーザ®に交換し、空打ちを行ってから、注射してください。  
それでも問題がある場合は、医療従事者に相談してください。

	現 象	原 因	対 処 法
初期状態	注射針が取り付けられない	右の①、②の順で対処してください。	①注射針を交換してください。 ②注射針を交換しても取り付けられない場合は、新しいビクトーザ®に交換してください。
	主治医から指示された量に設定できない	カートリッジ内の残量以上の量は設定できません。	①残量分を注射した後、新しいビクトーザ®に交換し、空打ちした後、不足分を注射してください。
	ダイヤルが回らない	右の①、②のいずれかで対処してください。	②新しいビクトーザ®に交換し、空打ちした後、主治医に指示された量を注射してください。
	カートリッジのゴム栓が膨らんでいる 	・注射針が正しく取り付けられないまま、投与量を設定して注入ボタンを押しました。 ・注射針を取り付けずに、投与量を設定して注入ボタンを押しました。	ゴム栓が過剰に膨らんでいると、注射針を正しく取り付けられなかったり、取りつけた場合にゴム栓が裂けることがありますので、新しいビクトーザ®に交換してください。 注射後、ゴム栓が膨らんだことに気がついた場合は、設定した量の薬液が注射できていないおそれがあります。血糖値や自覚症状の変化にご注意いただくとともに主治医に相談してください。 ●注射針は「注射針を取りつけましょう」の説明通り正しく取りつけてください。
空打ち	空打ちのとき、薬液が出ない(注入ボタンは完全に押し込める)	カートリッジの中に気泡が入っています。	気泡が抜け、薬液が出るまで空打ちを続けてください。 ●ごく小さな気泡は完全に打ち出すことはできませんが、これは異常ではありません。
	空打ちのとき、薬液が出ず、注入ボタンが押しにくい(押せない)	注射針が曲がっている、または針穴が詰まっています。	新しい注射針に交換してください。 ●注射針は「注射針を取りつけましょう」の説明通り正しく取りつけてください。また、使用前に針を曲げたり傷つけないでください。
注 射	注射のとき、注入ボタンが押しにくい(押せない)	注射針が曲がっている、または針穴が詰まっています。	ダイヤル表示の数字が、設定した量のままの場合は、ダイヤル表示を「0.0mg」に戻して新しい注射針に交換し、空打ちした後、注射してください。 ダイヤル表示の数字が、設定した量から減っている場合(注入ボタンが一部動いた場合)は、設定した量の一部の薬液が注射されてしまったおそれがあります。主治医に相談してください。 ●注射針は「注射針を取りつけましょう」の説明通り正しく取りつけてください。

●当社は、厳密な品質管理のもとにビクトーザ®を皆様のお手元にお届けしておりますが、万一故障や何らかの不具合がある場合は決して使用せず、主治医に相談してください。  
●本品は、JIS T3226-1(医療用ペン型注入器-第1部:ペン型注入器-要求事項及びその試験方法)に適合しています。

大切な注意です 製品に添付されている使用説明書も併せて必ずお読みください

1)保管について

- ・基本的な保管方法
- 未使用の場合  
冷蔵庫内に食べ物などとは区別して清潔に保管してください。ただし凍らせてはいけません(フリーザーの中や冷蔵庫内の冷風が直接あたるような場所には置かないでください)。凍らせた場合は使用しないでください。
- 使用中の場合  
注射針をはずして室温で保管し、30日以内に使用してください。
- ・遮光して保管してください。直射日光のあたる場所、自動車内などの高温になるおそれのある場所には置かないようにしてください。
- ・外箱および本体のラベルに表示された使用期限を過ぎたものは、使用しないでください。

2)ご使用に関して

- ・注射時刻、注射手技などの方法については、主治医の指導を受け、正しく注射してください。
- ・必ず製品に添付されている使用説明書をよくお読みください。
- ・注射針は必ず毎回新しいものに替えてください。
- ・注射する前には、手指を石けんでよく洗ってください。
- ・注射針を取りつける前には、カートリッジのゴム栓を消毒綿でていねいに拭いてください。

3)その他の注意

- 注射部位反応  
本剤を注射した部位に発疹、はれ、かゆみがあることがあります。そのときは主治医に相談してください。
- 感染症  
不潔な注射により、注射部位に感染症を起こし、痛みと熱が出る場合があります。そのときはすぐ主治医に連絡してください。
- 皮下脂肪の変化  
いつも同じ部位に注射すると、皮膚がへこんだり逆に膨れたりすることがあります。主治医の指示通り注射場所を変えてください。
- その他  
・使用する前にはカートリッジ内に異常がないことを確認してください。カートリッジの内壁に付着物がみられたり、薬液中に塊や薄片が見られる場合は使用しないでください。  
・カートリッジにひびが入っている場合は使用しないでください。  
・1本のビクトーザ®をほかの人と一緒に使わないでください。